

中田かわら版 5月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<9>

御霊神社宮司

ボーイスカウト団委員長

宮本忠直さん (82歳)



御霊神社の広い境内で多数のカブスカウトやボーイスカウトたちを前に宮本団長が訓辞された言葉を私は今でも忘れない。

「君たち一人ひとりが自立の心を持ち、烏合の衆にならない人間になって欲しい」。息子がまだ小学3年生ぐらいでカブスカウトのころ、かれこれ40年位前の話だ。このことを先日、お会いした時このことを訪ねたら、昔のことで覚えていなかった。では、現在は子供たちにどういうことを教えているのか聞いてみたい気がした。

「日本の国柄は、歴代天皇とともに2000年以上も継承され堆積されてきた輝かしい文化がある。誇りに思い大切にしてほしいと、強調し言っています」。確かにいま日本人が忘れていた点だろう。宮本先生の生涯は青少年の育成、人間形成に情熱を持った教育者であると思う。小山進、小島馨、渡辺和男、小島英夫、大津省一氏など多くの人材を世に送り出している。偉大な教育者であった宮本 湊（いたる）先生はひいおじいさんに当たる。

宮本先生は御霊神社の宮司、歴史研究者として地域に膾炙しているが、ボーイスカウト横浜31団の団委員長としての宮本先生を、まず思い浮かべてしまう。私が中田町に転居した昭和39年当時、最初に知った有名人は宮本先生と奥津喬雄さんと寅さんこと山口寅蔵いう三人の名前だった。新住人の自分には雲の上の存在に見えた。昭和46年、体育指導員になったことがきっかけで連合の運動会、各種スポーツ大会、健康教室などの審判、準備に出たとき、よくお会いするようになった。連合会長、県会・市会議員、学校の先生、そして素晴らしい仲間たちとの出会いもあった。宮本先生とは青少年指導委員、体育指導員と一緒に活動した時期もあり、年一度の一泊研修旅行では楽しい思い出もたくさんある。



昨年8月八ヶ岳山麓で野営

昭和61年（1986年）、戸塚区から泉区が分区後、「泉区歴史の会」の発足に尽力されたのも宮本先生だった。会報「郷土いずみ」の編集で10年くらい、宮本先生や有馬（純律）先生のもとでいろいろお世話になった。その「歴史の会」では会長職を長く務め投稿、講演、座談会などで活躍された。会報「郷土いずみ」7号に載った『地名考（1）』は旧中田村の地名について書かれた大変貴重な資料である。話が弾んだついでに、宮本先生が書かれたものの中から二つ質問してみた。「中田の領主・石巻康敬が住んだという場所は何故わからないのですか」「マッカーサーが飲んだ井戸の水の話、いろいろ反論もあるようですが」。歴史に100%確かなものってありません、諸説があつていいでしょう（同感!）。最後に、中田で育ち、中田の生き字引のような宮本先生にとって、今の中田はどう映っているのだろうか。「埃だらけなのでこぼこ道が綺麗になり、地下鉄まで開通したことです。想像すらできなかったことですから」。これからもますますお元気で地域のためご活躍されることを願って。楽しい1時間半の対話、ありがとうございました。

（編集委員 宮田貞夫）

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう!～

6月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【町会運動会情報】

6月2日(日)「横浜市開港記念日」に複数の町内会で運動会が開催されます。

- ・中田踊場…中田町第九公園：9:00～
- ・東原…しらゆり公園野球場：8:30～
- ・中西…中田町丸の内公園：8:30～
- ・向根下…中田小学校グラウンド：13:00～
- ・葛野7町会…葛野小学校グラウンド：8:30～

連絡：各町内会にお問合せください。

※葛野7町会…山神前、葛野、葛野東、戸塚苑、春日、山百合、高砂



『中田さくらまつり』盛大に挙行

▶「地域の皆さんと中田小学校のさくらを楽しむ」ことを目的に、中田小学校同窓会の主催で、3月31日(日)、2発の打ち上げ花火を合図に19の模擬店とフリーマーケットが開かれた。

次第に回復した天候の下、12時過ぎには、今年最後の中田小マーチングバンドのドリル演奏が披露され喝采をあげた。

▶今年は、例年参加者を楽しませてくれた「ミニSL」が雨を心配して不参加だったのが惜しまれた。



中田小学校の校庭では、ソフトドリンク、ビール、焼きそば、焼き鳥、スライム、ストラップ作り、赤飯、イカの丸焼き、コロッケ、フランクフルト、おでん、お餅つき、ヨーヨー釣り、玉こんにやく、ポップコーン、カレー、綿菓子、とん汁、いなり寿司、団子…並んだ模擬店が満開のさくらとともに大いに賑わった一日でした。（編集委員 山木重樹）

◆「中村」は中田村の中心地だった

「なぜ中村には史蹟や広い自然が多いのだろうか」——中田連合が発行している『ふるさと中田』30周年記念号で中村自治会の会員から素朴な疑問が出されていた。地名の場合、「中村」はその集落の中心地を表すのが通例で、当時の中田村の中心的存在であった。御霊神社、中田寺、



中田の領主・石巻康敬の墓、中田学舎（明治6年）などを控え、全ての面で流通の盛んな場所だった。かつて高札場があった八百仲商店（現スペースアップ）から中田寺へ向かう斜めに通じる道は一番人出での多い通りであった（高札とは法度、掟書などを記し、重罪人の罪状を書いて人目の引く場所に掲げた立札。広辞苑より）。御霊神社は中田村の鎮守様であり、敷地面積は山林まで含めるとおよそ2千坪を超え、県の風致保安林にも指定されている。地元の中村としてはことさら厚く敬い、また多くの村民が行き来したことだろう。現在使われている地名で中西、中下、宮ノ台などは神社を基準につけられた名称である。（編集委員 宮田貞夫）



「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！